

三木 清 (みき・きよし) 1897~1945

哲学者 ~ロゴスとパトスの統一を目指した在野の思想家~

出生 1897 (明治 30) 年 1 月 5 日 兵庫県揖保郡平井村小神 (現・龍野市揖西町) に生れる 祖父は農業 傍ら米を商い 比較的裕福な家庭に

履歴 第一高等学校から西田幾多郎の影響を受け師事を仰ぎ 京都帝国大学文学部哲学科に進む 同大卒業後 (1920) ドイツ フランス留学 (1922~25) 帰国後母校京大に席を得られず 上京法政大学教授となる (1927~30) 同時岩波書店で企画・編集に協力し 1930 年日本共産党の資金提供容疑で検挙 拘留され公職を退き 釈放後は著述生活を送る 傍ら多摩美術学校等講師を勤め 近衛内閣の政策集団である昭和研究会に企画体制の参加から変革を講じる道を模索した (1938~40) 開戦後陸軍宣伝班員として徴用され マニラへ赴任 (1942)



事績 思想初期新カント派等哲学を取り組み 哲学・歴史科学の基礎を

「アントロポロギー (生の存在論) とする独自の構想を形成し 唯物史観に関する論文を次々発表 マルクス主義を哲学的に基礎とし 同時期に羽仁五郎と共に雑誌『新興科学』の旗本を創刊 (1928) 戦時色が強くなる中にも活発な言論活動を続け 不安な思想「超克」の「ネオ・ヒューマニズム」を提唱し 西田哲学の傾斜を深めた

評価 幅広い野に著作を残し 恩師波多野精一は体系的哲学者として批評家 評論家 著者 熱狂的支持者を持つ一方でマルクス主義者や他者の批判も強い 思想が影響を及ぼし 今日 出海や阿部知二のモデル小説を残す

代表作

『パスカルに於ける人間の研究』ハイデッガーから学んだ解釈学の方法を駆使した論文集 処女作である 実存哲学的著作 戦国最初のものである 全集第一巻収録

『人生論ノート』『文学界』に連載され 死・幸福・懐疑など人生に関する随想をまとめた 出版されるや否やベストセラー 全集第一巻収録

『構想力の論理』1937 年第 1 回「神話」を発表 以降「制度」「技術」「書」をめぐり 経験を言語執筆を予告し 哲学体系化の最初の足りを書き終った 全集第八巻収録

『哲学ノート』『知性』に連載され 41 年 1 月号を付河出書房より出版された 世界史の哲学 始め 27 項目を自由形式論 哲学の様々な立場を統一し まとめた 全集第十巻収録

IL リット 岩波書店に縁深い ドイツの留学を岩波茂雄の金銭的援助により実現し 中国北部方面へも共に巡遊 (1928) 帰国・上京後 岩波書店の企画・編集協力 岩波文庫発刊の辞も三木の草案による (1927) 岩波講座 世界思潮に桂夫・羽仁五郎らと共同編集した (1928)

最期 1945 年 (昭和 20) 3 月 共産主義者高倉テルを庇護から治安維持法違反で検挙・拘留され 終戦後も釈放され 同年 9 月 26 日 中野区豊多摩刑務所内で病死 享年 48 歳

Great Works 30

三木清全集 全 19 巻 岩波書店 1966~1968 年 <121.9 / 60>

解説 『三木清著作集全 16 巻 (1946~51)』に収録されたものを増補し出版された全集 梶田啓三郎編 著書の多岐にわたる論文・評論を集めたもので重複多から 最初から単行本で執筆した書物以外 独立の論文を類別に分類 年代順に配列される 1984~86 年出版された版 題名総索引を含め全 20 巻である

内容

第 1 巻 パスカルに於ける人間の研究 [岩波書店 1926 年] 人生論ノート [創元社 1941 年] 【論文】読書遍歴 [1941 年] 他 [『読書と人生』 [小山書店 1942 年] に収録された散文]

第 2 巻 史的観念論 諸問題 [岩波書店 1929 年] ボルツァーの命題自体 [1923 年] スピノザに於ける人間と国家 [1932 年] ゲーテに於ける自然と歴史 [1932 年] 他 [独文の論文とその翻訳]

第 3 巻 =唯物史観研究 唯物史観の現代意識 [岩波書店 1928 年] マルクス主義を人間的な視点から解釈した論文集] 社会科学の予備概念 [鉄塔書院 1929 年] 観念形態論 [鉄塔書院 1931 年]

第 4 巻 知識哲学 [小山書店 1942 年 次の 2 論文を含む] 認識論 [1930 年] 論理直観 [1941 年] 弁証法 [全集のための章立て] 弁証法と自由と必然 [1929 年] 弁証法と存在論的解明 [1931 年] 現代思潮 [1928 年] 現代哲学思潮 [1929 年 『岩波講座 世界思潮』のための口述速記]

第 5 巻 =哲学緒論稿 危機意識の哲学的解明 [1932 年] 他 *1932~40 年に執筆された試作的哲学論文 15 篇

第 6 巻 歴史哲学 [岩波書店 (続哲学叢書) 1932 年 歴史の三重の層を説いたが唯物史観からの転向と批判も

- 受けた]社会科学概論[岩波書店(岩波講座哲学) 1932年]
- 第7巻 哲学入門[岩波書店(岩波新書) 1940年 三木思想の最もまとまった叙述]技術哲学[岩波書店(岩波講座論理学) 1941年]他[2つの辞典のために書かれた論稿6篇]
- 第8巻 構想力の論理[1937~33年 のち岩波書店(第一・第二) 1939,46年]
- 第9巻 アリストテレス[岩波書店(岩波講座世界思潮) 1929年]アリストテレス「形而上学」[岩波書店(大教育家文庫第二巻) 1935年]アリストテレス[岩波書店(大教育家文庫第十巻) 1938年]ソクラテス[岩波書店(大教育家文庫第八巻) 1939年]
- 第10巻 = 哲学評論 哲学ノート[1939年]他 *1928~41年に執筆された哲学評論・批評28篇
- 第11巻 = 文学論稿 現代階級闘争の文学[岩波書店 1933年 発売禁止処分を受けた]他 *1929~37年に執筆された文学に関する論文14篇
- 第12巻 = 文学評論 *1930~39年に執筆された文学に関する評論・随筆類と辞典の哲学・文学用語解説
- 第13巻 = 評論 宗教・教養と文化(一) 如何に宗教を批判する[1930年]他 *宗教に関する評論10篇と1928~37年に発表された教養と文化に関する評論42篇
- 第14巻 = 評論 教養と文化(二) 読書論[1941年]学問と人生[1941年]他 *1938~43年に各種の雑誌・新聞等に執筆した評論44篇
- 第15巻 = 評論 社会・時局 *1934~43年に執筆した社会・時局をテーマとする論文
- 第16巻 時代道德[作品社 1935年 読売新聞「一日一題」に寄稿した思想時評的短文]現代の記録[作品社 1939年 前者と同様]続現代の記録[「一日一題」のうち単行書にならなかった分につけた章立て]コラム「東京よ!」他[各新聞に発表された連載コラム・時局時評]
- 第17巻 = 歴史的研究・小篇他 社会史的思想史(古代)[1933年]一夫一婦制論[1937年]日支文化関係史[1940年]他 *随想・随筆に類する文章25篇、序文・後記および師西田幾多郎との対談
- 第18巻 語らねば哲学[1919年頃 手稿]手記[1930年頃獄中にて検事に提出するために書かれた]哲学の間学[『岩波全書』として出版される予定だったが未完]親鸞[死後発見された未完の遺稿]
- 第19巻 = 遺稿[初期未発表の手稿を含む草稿等10篇]・日記・書簡・補遺[各巻編集後に発見された63篇]・年譜[年譜・著作年譜]他

参考文献 ~この人をもっと知るために~

< 図書 >

- ☞ 三木清に関する文献目録(稿)/万里小路通宗編
万里小路通宗1978年 20p <121.9/116> 資料番号 10202588
- ☞ 三木清(紀伊國屋新書)/荒川幾男著
紀伊國屋書店1968年 198p <121.9/59> 資料番号 10201366
- ☞ 西田・三木・戸城の哲学(思想史百年の遺産シリーズ 講談社現代新書 133)/宮川透著
講談社 1967年 203p <121.9/69> 資料番号 10201721
- ☞ 三木清(近代日本の思想家 10)/宮川透著
東京大学出版会 1958年 189p <121.9/49> 資料番号 10201127

< 図書(部分) >

- ☞ 三木清の哲学/赤松常弘著(京都学派の哲学)
昭和堂 2001年 p80-95 <121.6KK/166> 資料番号 21403894
- ☞ 三木清/久野収著(久野収集 3)
岩波書店 1998年 p25-157 <081.6/133/3> 資料番号 21066576
- ☞ 三木清/唐木順三著(唐木順三全集 第8巻)
筑摩書房 1968年 p1-232 <918.6/188/8> 資料番号 12069043
- ☞ 三木清/谷川徹三著(近代日本の良心)
光書房 1959年 p208-222 <281.04/24> 資料番号 10506079

< 雑誌論文 >

- ☞ (特集)三木清の業績/上原専禄・清水幾太郎・梅本克己・林直道・山崎謙著
思想(岩波書店) 329 [1951.11] <Z051/5>